

# まちの活性化に図書館は最高の館！ 伊丹市立図書館ことば蔵の試み

伊丹市教育委員会都市活力部  
(図書館長兼務) 綾野 昌幸



## 1 「ことば蔵」って？

「ことば蔵」は2012年7月に開設した伊丹市立図書館の愛称である。開設コンセプトは「公園のような図書館」。今までの貸本業務中心ではなく、にぎわいがあり活性化につながる新しいタイプの図書館を目指すこととなった。それは「今日的な図書館機能」の他に「交流機能」「情報発信機能」を加味していくというものである。

## 2 地域とことば蔵のちょっとした関係

新たに事業を行っていく上で、まず取り組んだのは「運営会議」の設置。名称は堅いが、基本的にオープンで誰でも参加でき、市民をはじめ民間の方々や図書館職員が、ことば蔵をどうやって活性化していくか議論する場である。1階の大部分が交流フロアと呼ばれ、「公園のような」雰囲気、飲食自由、会話自由としている空間である。イベント開催時はマイクやスクリーンを使ったりして様相が一変する。運営会議も、この場所で行っている。



運営会議

ことば蔵は「まちの人が主役」の館で地域活性化の一翼も担っている。その事業として代表的なのが「まちゼミ」である。これは、企業や商店の方などに「参加者のためになること」をゼミとして話してもらい、その会社やお店はファンを増やそうという事業である。清酒発祥の地伊丹の酒造会社の方が講師と

なり「おいしいお酒の飲み方」を教えてもらったり、雑貨店店主に「上手なラッピングの仕方」を実際に指導してもらったりなどのタイアップで講師と参加者がwin-winとなつている。



まちゼミ ラッピング講座

## 3 運営面の工夫 Library of the Year大賞

運営面で一番の特徴は「無料×無料×無料」のシステムである。イベントをする際の講師料、参加する方の参加料、そして交流フロアの使用料がそれぞれ無料というシステムである。つまり、まちゼミや市民企画など全て基本的に無料で教えてもらっている。なので、年間20万円(ほとんどPRチラシやポスターなどの印刷費)で200以上(図書館企画含む)